

牛・豚・鶏は何を食べて育つの？

A

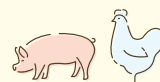
一般的に、牛は牧草などの「粗飼料」と穀物などを原料とする「濃厚飼料」の2種類、豚と鶏は主に「濃厚飼料」を食べて育っています。

粗飼料



イネ科牧草、マメ科牧草、青刈りトウモロコシ、野草、わら など

濃厚飼料



大麦、トウモロコシ、大豆、フスマ、米ヌカ、油粕類、魚粉 など

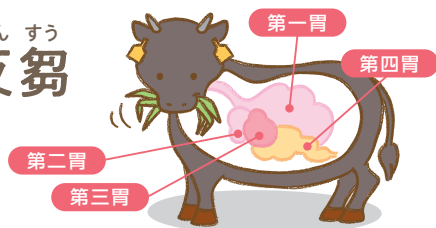
『粗飼料』はイネ科牧草やマメ科牧草、青刈りトウモロコシなどの飼料作物、野草、わらなどで、消化器の機能を安定させるために不可欠な繊維質を多く含んでいます。『濃厚飼料』は主に大麦、トウモロコシ、大豆などの穀物、フスマや米ヌカなどの糟糠類、食用油を製造する際に発生する油粕類、脱脂粉乳や魚粉といった動物性原料によるものがあり、たんぱく質、炭水化物、脂質を多く含んでいます。

『牛』は胃が4つあり、一度飲み込んだ飼料を口

に戻してもう一度よく噛んでから飲み込む「反芻」という食べ方をしています。反芻動物は粗飼料のみでの飼育も可能ですが、早く太らせてサシの入った良質の牛肉を生産するために肥育期間は主に濃厚飼料を与えています。胃が1つしかなく生まれてから半年程度で出荷される『豚』は特別な場合を除き濃厚飼料のみ、『鶏』の大部分を占める「ブロイラー」も2か月弱で出荷されるため基本的には濃厚飼料のみを与えています。

また、国内で生産される、あるいは海外から輸入される飼料および飼料添加物の安全性の確保と品質を図るため、『飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（飼料安全法）』に基づいて、飼料などの製造などに関する規制、飼料の公定規格の設定とこれによる検定などを行っています。

はんすう
反芻



牛の第一胃

牛の第一胃は容量が大きく、2Lペットボトル100本分もの液体が入るほど大きいといわれています。また、開いた形がわらなどで編まれた蓑に似ていることから、「ミノ」と呼ばれる畜産副生物として親しまれています。